



第6回 InterSystems 医療x IT セミナー

すべてのデータを利用可能に～データが支える医療と健康～

医療DXを支える医療情報連携プラットフォーム ご紹介と活用例

2025.10.07

株式会社インテック

医療ソリューション事業本部

第一医療ソリューション部 熊谷 宗久

会社概要および弊社医療事業紹介	3
医療情報連携プラットフォームご紹介	8
大阪けいさつ病院様での活用例および 弊社プラットフォーム機能	18
まとめ・今後の展望	35

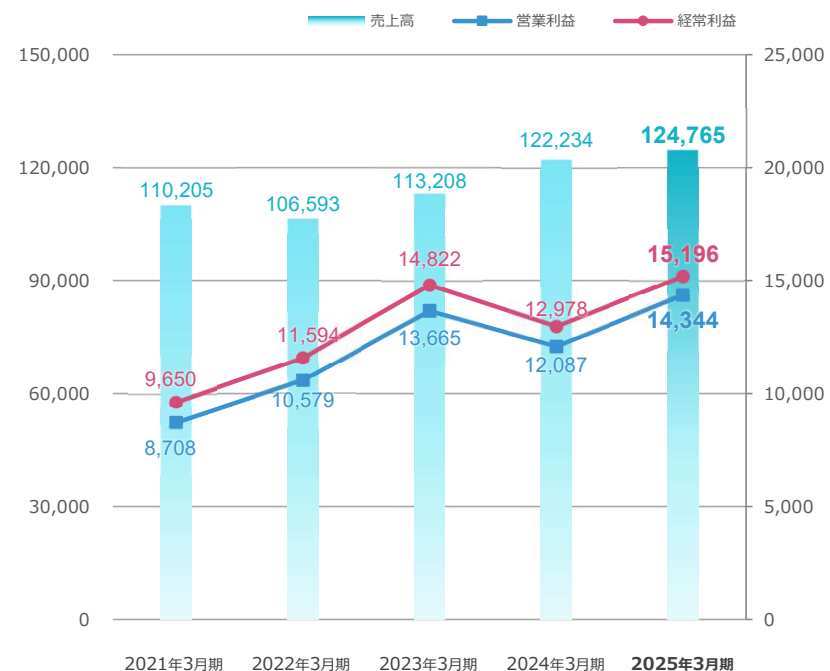
会社概要および弊社医療事業紹介

インテックは、1964年の創業から半世紀に渡り、「いつでも、どこでも、誰もが」自由にコンピュータの恩恵を受けることができるコンピュータ・ユーティリティ社会の実現を目指し、多くのチャレンジを続け、お客さまビジネスと社会の発展に貢献しています。

社名	株式会社インテック (INTEC Inc.)
設立	1964年1月11日
資本金	208億30百万円
代表者	代表取締役社長 疋田 秀三
従業員	3,915名 (2025年9月1日現在)
株主	TIS株式会社 (100%)
主要取引銀行	三菱UFJ銀行 富山第一銀行 みずほ銀行 北國銀行

■ 業績推移

(単位：百万円)



インテックのソリューション

インテックは、他社に真似できない独自のサービス・ソリューションを全国へ広域展開します。さらに、社会のさまざまな課題に向き合い、業界の垣根を超えたクロスインダストリーで、社会課題を解決するとともに、新たな価値創造への挑戦を行っていきます。

ICTコンサルティング

経営に関する知識を有し、ICTシステムの開発や運用を経験したコンサルタントが、システム企画から開発、運用、保守まで、お客様の経営戦略と一体となった実践的なICT戦略を策定します。

システム・インテグレーション

独立系企業として、金融、自治体、製造、流通などの幅広い分野で、豊富な業務知識を有するシステムエンジニアが設計から構築、運用、保守サービスまでをトータルに提供します。

ネットワークサービス

1985年、特別第二種電気通信事業者として第1号認可を受けて以来、拡張性と柔軟性に富んだ高品質なネットワーク網をベースに、トータルEDIシステムやID管理ソリューション、セキュリティソリューションなどを提供しています。



アウトソーシングサービス

24時間365日のノンストップの監視体制と1964年の創業以来、蓄積してきたノウハウを駆使し、お客様の事業の継続を支えるサービスを提供しています。

ソフトウェア開発

お客様のビジネス展開に応じて、経営戦略を支援する情報システムや基幹業務システムの構築をお手伝いします。

技術研究

画像・音声を用いる技術、データ処理技術、さまざまなデバイスを利用したサービス構築のための技術など、最先端の情報通信技術の研究を進めています。省電力で快適な「スマートコミュニティ」構築のためのさまざまな実証実験を行っています。

人材育成

実績

先端技術 研究・開発

医療事業への取り組み

インテックは、1964年の創立より「コンピュータユーティリティの確立」を目指し、汎用機しかなかった時代よりマルチベンダーの指向を貫き通して参りました。

病院情報システムは、大きく分けてソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、データベースの4つの要素から構成されます。インテックはプランニングから継続的な運用支援まで、ワンストップサービスをご提供いたします。

主な開発 および 参画実績	<p>1970年代 国内初「漢字レセプトシステム」開発(横須賀共済病院様)</p> <p>1990年代 国内初「UNIX版オーダーリングシステム」開発(長野松代総合病院様) 地域医療向け「受診者ウィンドウズシステム」開発(自治医科大学病院様) 病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath」開発(国立がんセンター東病院様) 国内第2号レセプト電算処理システム稼動(社会保険船橋中央病院様) 政府管掌保険成人病予防データ活用システム参画(社会保険健康事業財団様)</p> <p>2000年代 社会保険病院定点観測システムベンダー認定(全国社会保険協会連合会様) 院内ポータルシステム「Medi Pack/Cube」開発(福井県済生会病院様) 病理・細胞診検査業務支援システム「EXpathⅢ」リリース</p> <p>2010年代 国内初S社システムから電子カルテシステムリプレース(横浜新緑総合病院様) 病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath4」リリース</p> <p>2020年代 医療DXを実現する医療情報連携プラットフォーム構築(岩手医科大学病院様) 病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath Ver5」リリース</p>
医療機関向け 提供実績	<ul style="list-style-type: none">・電子カルテ、看護支援、医事会計システム「富士通 HOPEシリーズ」・病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath」・院内ポータルシステム「Medi Pack/Cube-Portal」・医療情報連携プラットフォーム「Medical Data Link」・各種部門システム(薬局、検査、健診、給食、PACS、病歴、人給、財務、物流 etc.)

ソリューションマップ

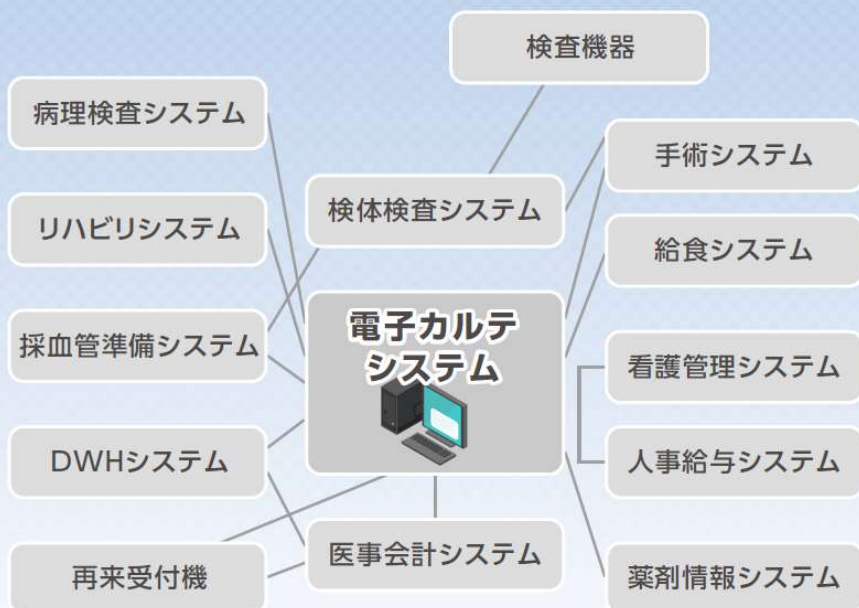


医療情報連携プラットフォームご紹介

「医療DX」を進める基盤の考え方

通常の医療機関のシステム連携イメージ

インテックが提供するプラットフォームのイメージ

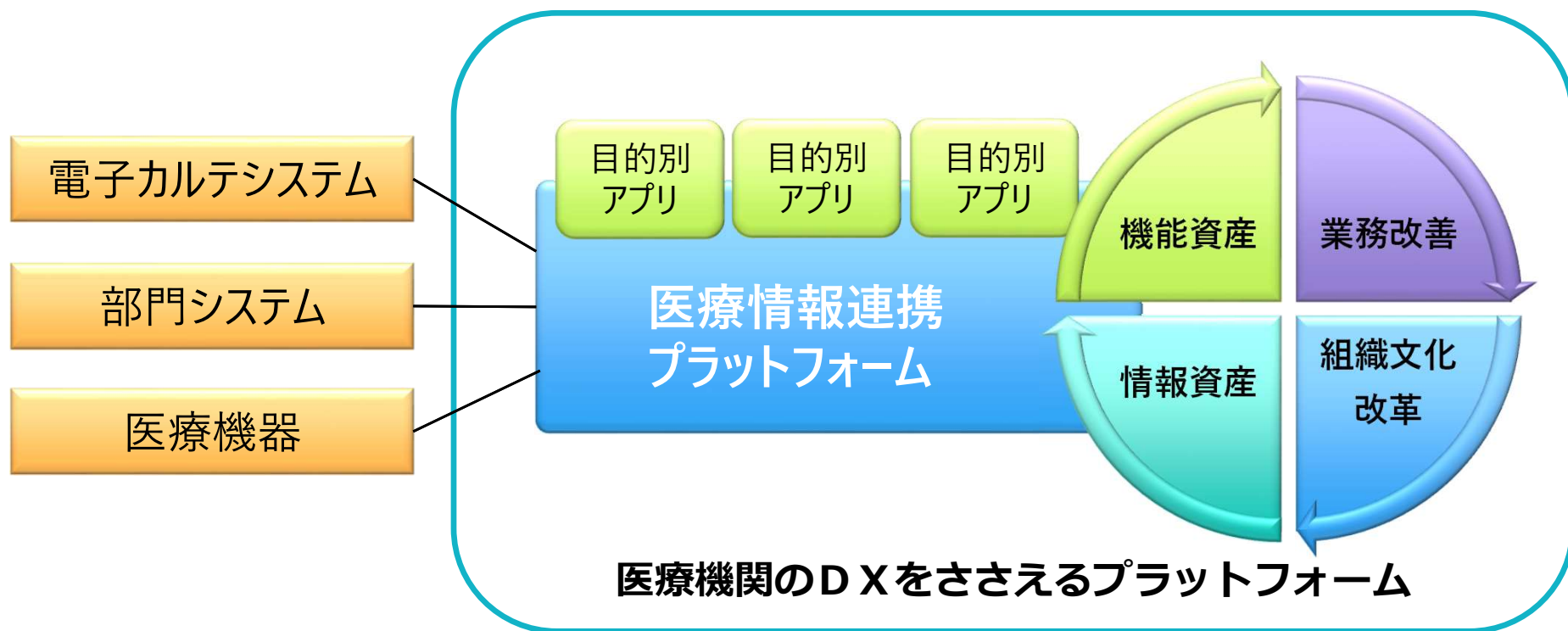


電子カルテシステムを中心として、
接続している部門システムと、独立可動している部門システムが存在
情報連携及び、業務効率に課題



医療情報連携プラットフォームがすべての院内システムと連携
院内すべての医療情報が活用可能

インテックが考える病院DXとは



前回セミナー（2021年4月）にお伝えしたこと

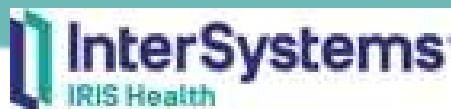
患者様・ご家族、医療従事者の方々をITで支えたい

病院経営の環境の変化に迅速に対応（スピード）



お客様の立場にたって、迅速に対応する
ITパートナー（共創） = インテック

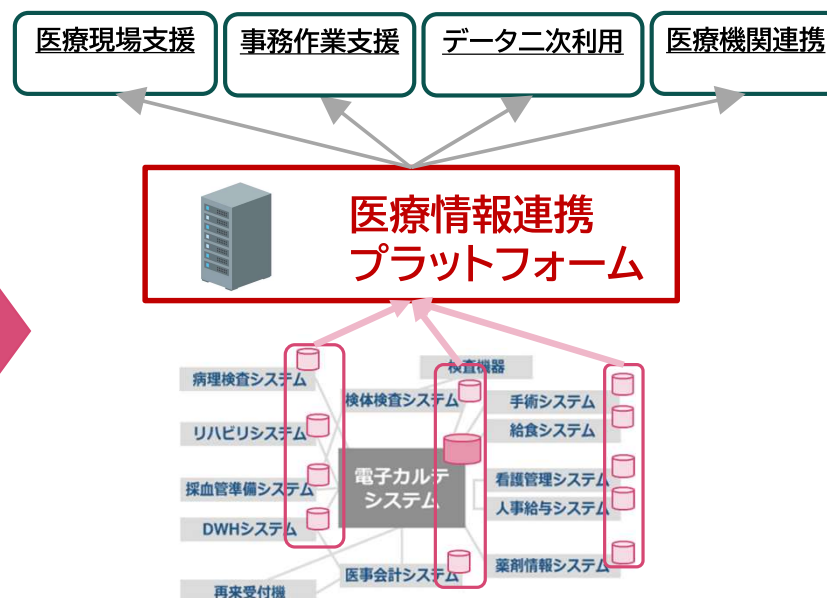
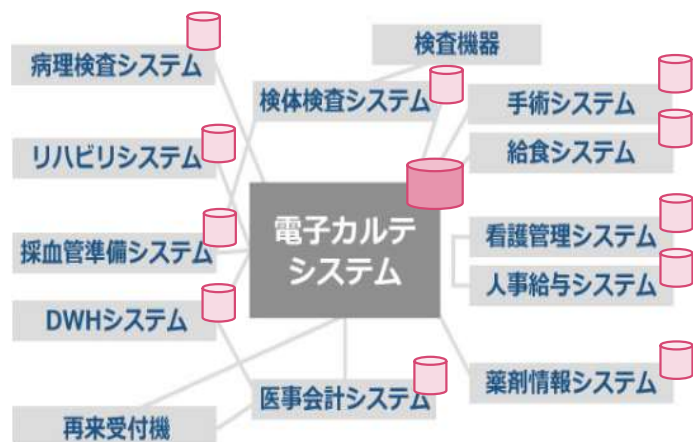
データがいつでも使える状態になっていること
= 医療情報連携プラットフォーム



インテックの医療情報連携プラットフォーム コンセプト

医療機関内に蓄積されている医療情報を、医療機関自身が「診療の質向上」「医療安全の強化」「臨床研究支援」「業務効率向上」「医療機関連携」等に役立てるための医療情報活用基盤を提供します。

【必要な情報を、必要な時に、必要な量を、必要な人に】届けるための基盤



医療機関における医療情報活用に関する想定課題

医療現場での活用に関する課題

- ・医療安全に役立てたい
- ・医療現場の作業負荷を低減したい

臨床研究での活用に関する課題

- ・必要データを自由に出力できない
- ・ベンダー毎にデータ構造が異なる
- ・非構造化データで蓄積されている

経営/事務業務での活用に関する課題

- ・経営指標を臨機応変に見たい
- ・データ集約/集計作業の効率化

システム連携に関する課題

- ・電カルとの2重入力している
- ・ベンダー変更時のデータの継続性
- ・システム連携コストが高い

医療機関連携に関する課題

- ・複数病院の患者情報を連携したい
- ・複数病院から症例情報を集めたい

医療情報連携プラットフォームの特徴

- ・エンジンとして高性能な医療専用のデータプラットフォームを採用
- ・プログラム開発基盤が内蔵されておりデータ連携が容易
- ・国内の電子カルテや部門システムとの連携及びデータ変換のノウハウ



- ・パッケージソフトだけでは対応が難しかったニーズへの対応
- ・蓄積した医療情報 & 開発した機能は資産として継続活用が可能
- ・他システム連携、他施設連携など医療情報活用の幅が広がる

InterSystems IRIS for Health

世界初 医療専用データプラットフォーム



■ マルチモデルデータベース

リレーショナルDB
オブジェクトDB
ドキュメントDB

■ インターオペラビリティ

システム/データ連携
医療用データアダプタ
医療用データ変換
APIマネージメント (Kong)

■ 医療標準規格サポート

FHIR
FHIR Repository
HL7v2, v3
SS-MIX2
CDA/CCD
IHE-ITI
DICOM
ASTM

■ 分析

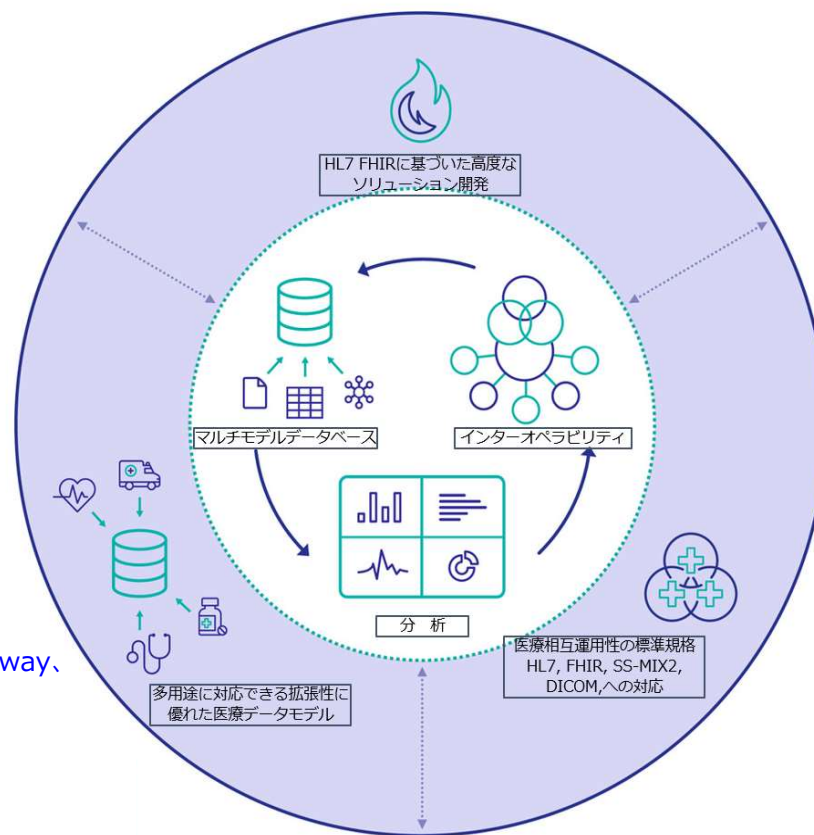
IntegratedML(Auto ML)
Business Intelligence
Adaptive Analytics
自然言語処理
Apache SPARK連携

■ スケーラビリティ

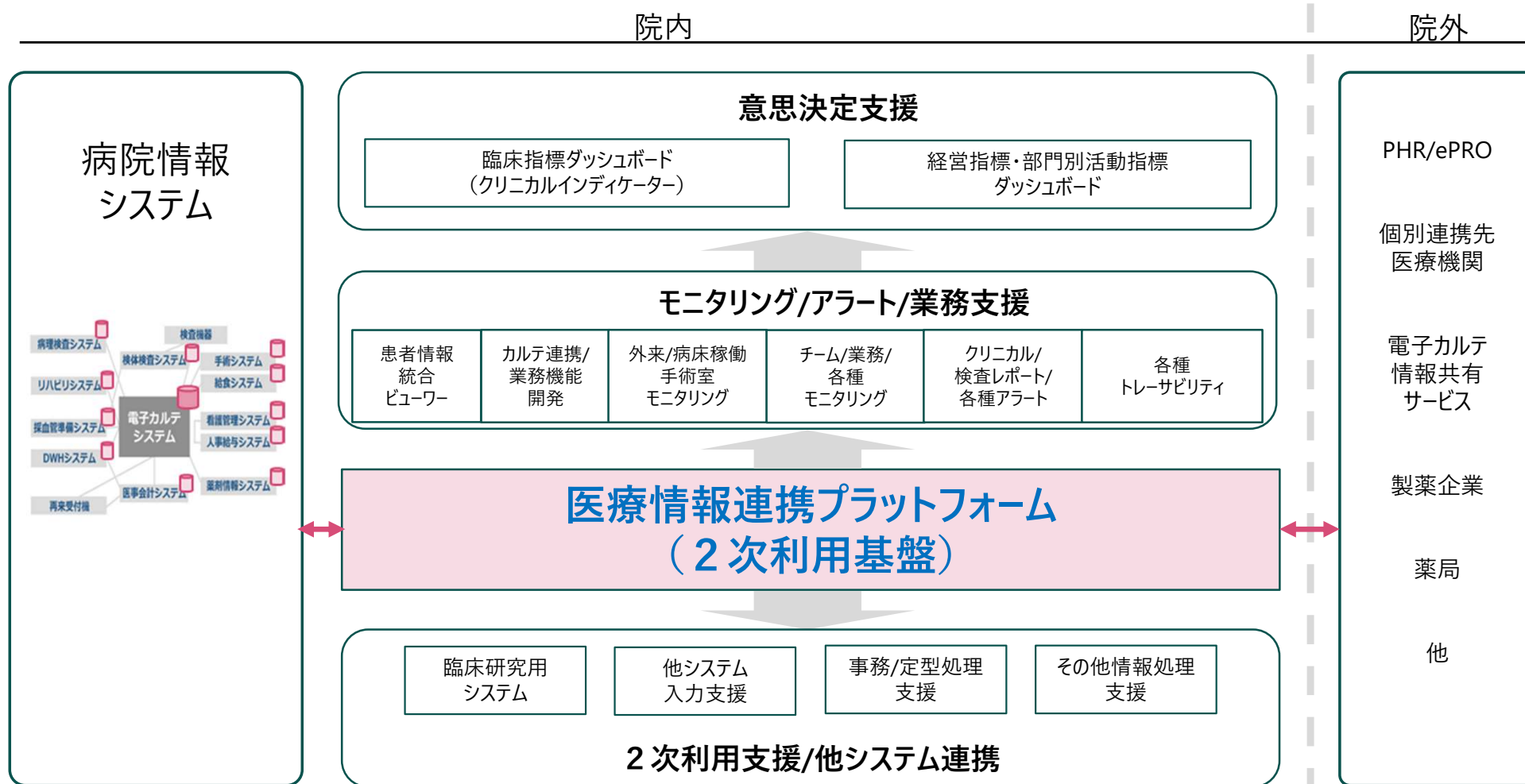
マルチワークロード
スケールアップ・スケールアウト

■ 対応しているプロトコルアダプタ

Email, File, FTP, HTTP, Java Gateway,
LDAP, .NET Gateway, SOAP,
SQL(ODBC,JDBC)、TCP、Telnet



医療情報連携プラットフォーム



医療情報連携プラットフォーム活用例

医療の質向上 医療安全	1.検査レポート既読管理	検査レポートの既読/未読ステータスを一元管理
	2.医療機器設定情報チェック	電カルの注射指示と医療機器の設定情報を自動照合
	3.患者プロフィールの統合化	患者プロフィールが院内すべての端末から確認可能
	4.院内通知/アラート	ドクターのスマホへ検査結果の到着通知
	5.ePROアプリ	患者報告アウトカムの収集
	6.検体トレーサビリティ	FHIRを用いた病理検査の院内トレーサビリティ
	7.カテ手術室管理	カテ手術室の予約/管理機能の実現
業務効率化 データ活用	8.事務作業効率化	大量の定型分析／定型帳票の自動化
	9.経営支援	医療機関経営指標の日次モニタリング
	10.臨床研究支援	臨床研究DBへ医療情報のリアルタイムI/F
	11.FHIRリポジトリ変換	医療情報活用のためFHIRリポジトリ化
	12.FHIRビューワー	ファサード変換による汎用FHIRビューワー
医療機関連携	13.公的医療機関連携型	医療機関の統合／機能再編／医療DXでの活用
	14.同一医療法人内連携型	医療グループ内での包括ケアでの活用
	15.特定疾病リポジトリ型	臨床研究用に複数の医療機関の疾病データを統合

遠隔/院内病理連携

電子カルテ情報共有サービス

ローコード開発ツール連携

経過表コスト連携

生成AI連携

病院統合時のプラットフォーム

大阪けいさつ病院様での活用例および 弊社プラットフォーム機能

大阪けいさつ病院山本様より

①スマートデバイス活用

※常勤職員は全職員にスマホ配布

- ・音声通話
- ・診療データの参照
- ・生体情報の取込、参照
- ・患者認証
- ・薬剤在庫管理、薬剤監査
- ・材料コスト入力
- ・各種通知
 - ・スケジュール管理
 - ・緊急呼出（コードブルー）
 - ・事務連絡・医療職へ伝言
- ・e-ラーニング受講
- ・有休などの事務申請
- ・出退勤管理
- ・職員の位置情報取得
- ・電子カルテログイン認証
- ・安否確認、グループウェア
- ・院内SNS

⑦統合DBの構築

- ・データ分析、経営分析・統計 BIツール、ダッシュボード
- ・カルテヘデータ引用
- ・退院サマリ、文書システムなど
- ・ヘルステックセンター
- ・人工知能へ応用

⑧通信インフラの充実

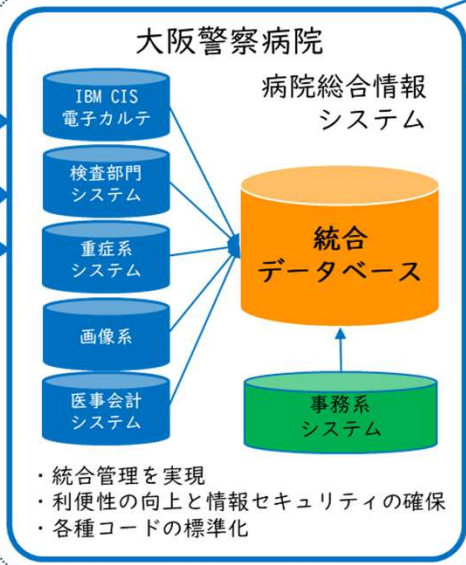
- ・次世代通信基盤の整備
- ・ローカル5G/sXGP（プライベートLTE）の利用推進
- ・職員・患者のインターネット環境を最適化
- ・すべての情報システム、医療機器を繋げる
- ・新病院不感知対策

②地域連携予約システムの導入

- ・24時間365日検査・診療予約可能
- ・診療情報提供書の電子化
- ・地域連携病院から診療データ参照
- ・検査予約票などの印刷

③地域連携管理システムの導入

- ・前方連携
 - ・紹介/逆紹介 画像文書管理
 - ・紹介情報、連携医療機関管理
- ・後方連携
 - ・退院調整/医療福祉相談
 - ・画像文書提供



⑥医療情報銀行 (SMBC)

- ・診療情報の預入
- ・オプトイン
- ・アレルギー・禁忌情報
- ・妊娠婦情報・処方歴
- ・ペースメーカ情報

④患者用アプリの作成

- ・来院受付～会計支払いまで 1つのスマホアプリで完結 ※MyHospitalの発展を想定
- ・患者スマホの利用推進
- ・大阪警察病院友の会
- ・電子診察券併用
- ・患者待ち時間短縮

⑤VR受付/診察室の導入

- ・未来病院のモデル、万博レガシを目指して
- ・アバター、アンドロイドによる受付
- ・カウンセリング、指導・遠隔診療など
- ・人材雇用創出に繋げる

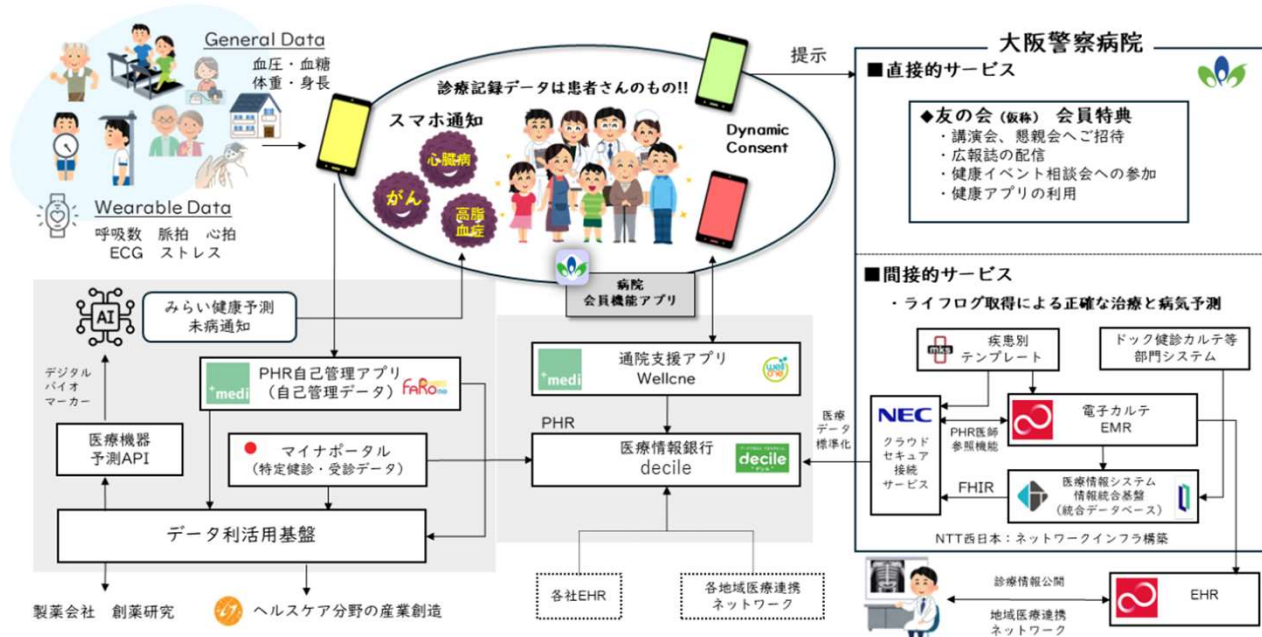
患者中心で医療データ利活用を実現するプラットフォーム

2025年1月の新病院開設に向けて、患者中心で医療データ利活用を実現するプラットフォームの構築を目指し、医療・ヘルスケアのDXに取り組む8社と検証をスタートします

2024.2.24 プレスリリース



大阪警察病院 患者中心で医療データ利活用を実現するプラットフォームの構築

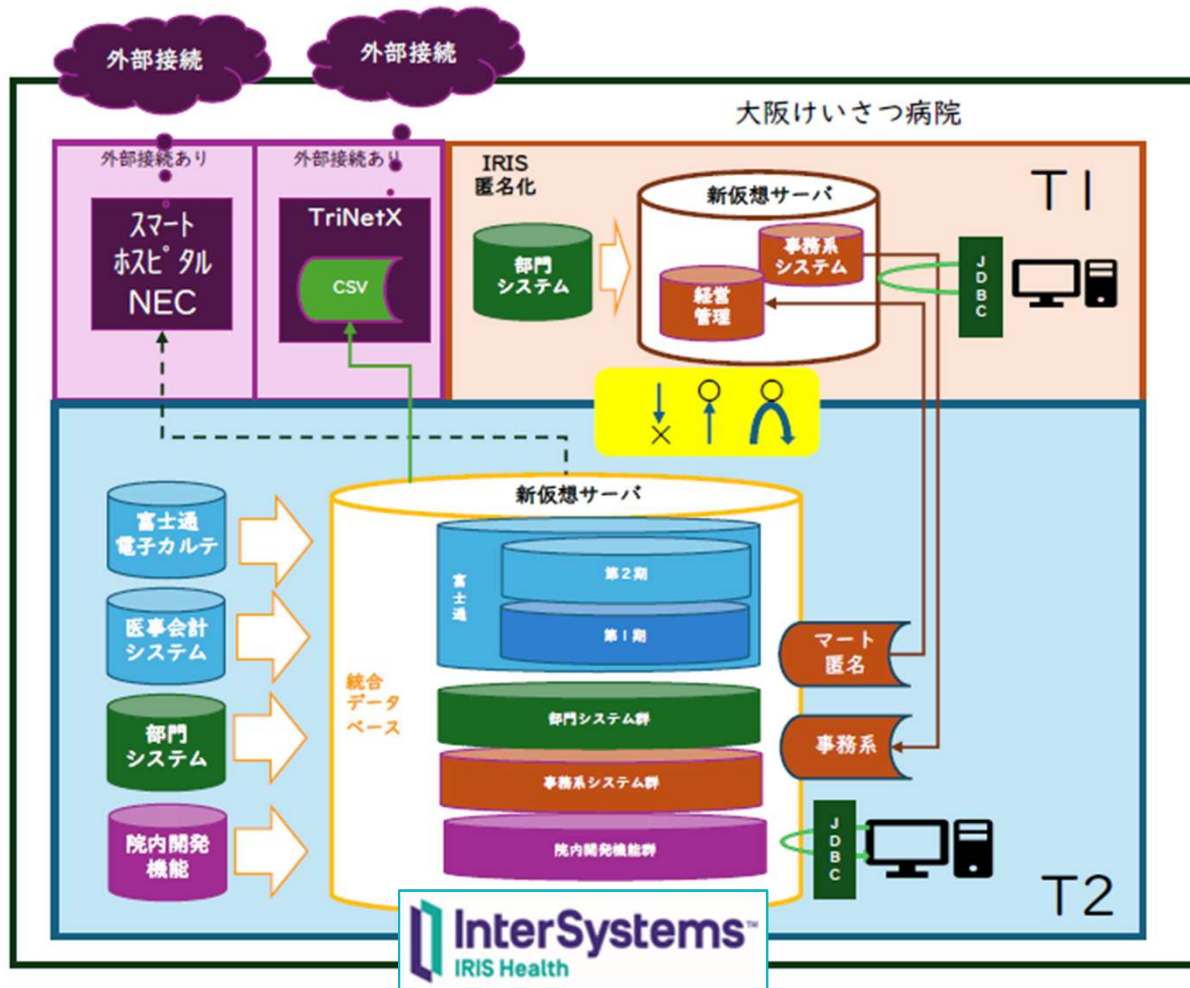
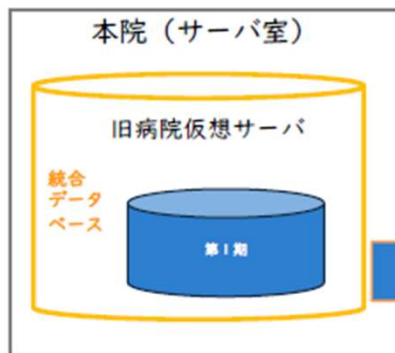


- ・株式会社インテック
 - ・株式会社エムケイエス
 - ・SUNDRED株式会社
 - ・西日本電信電話株式会社
 - ・日本電気株式会社
 - ・富士通Japan株式会社
 - ・株式会社プラスメディ
 - ・株式会社三井住友銀行
- (50音順、敬称略)

出典：大阪警察病院

© 2025 INTEC Inc.

システム全体概要

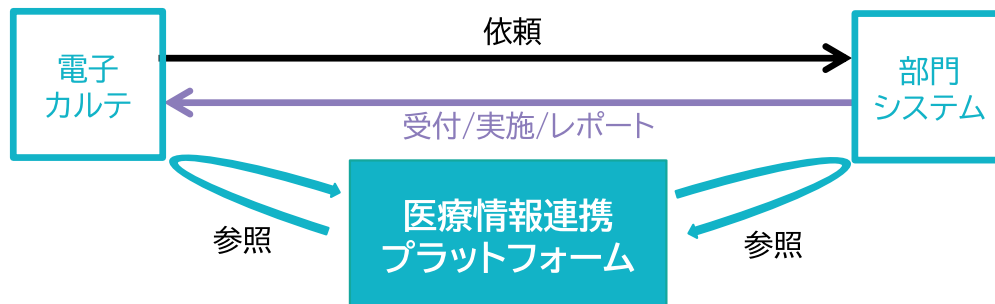


プラットフォームのデータ接続パターン

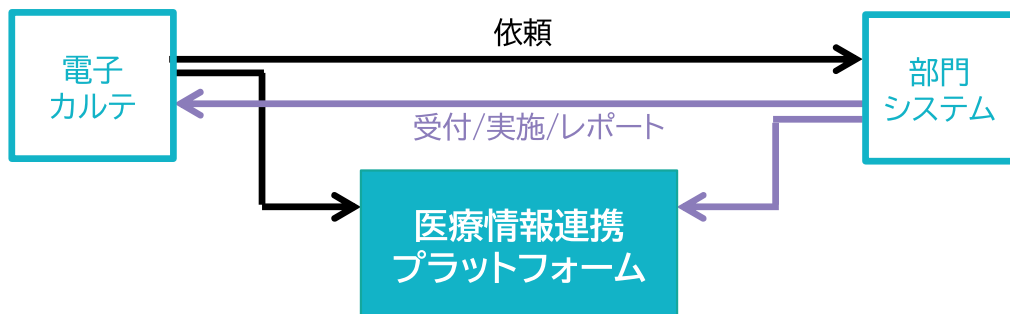
①リアルタイムパターン
プラットフォームが電文を中継



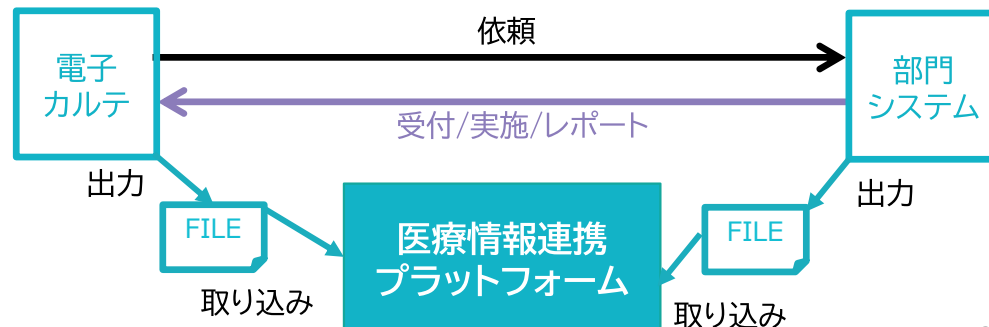
③データ参照パターン
プラットフォームから電カル/部門のDBを参照



②リアルタイムパターン
電カル/部門から同じ電文を受信



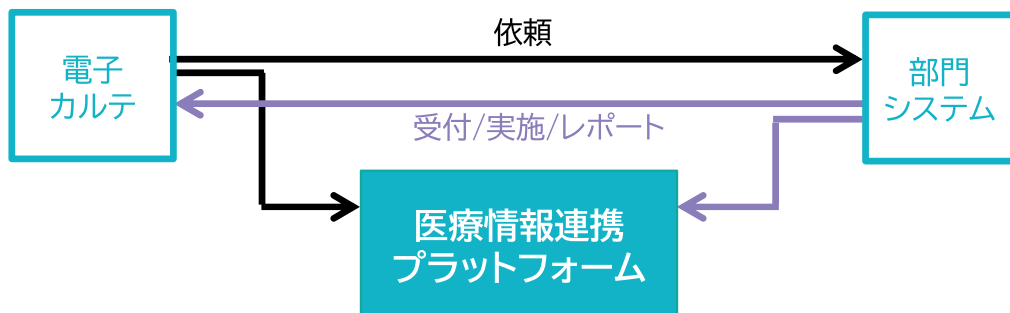
④ファイル連携パターン
電カル/部門が出力したファイルを取り込み



プラットフォームのデータ接続パターン

②リアルタイムパターン

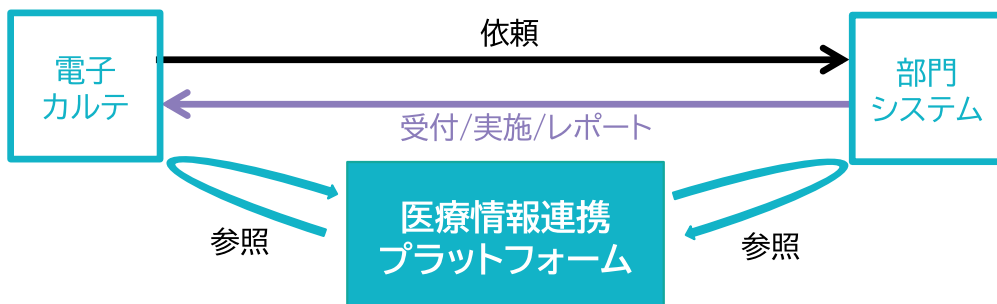
電カル/部門から同じ電文を受信



- ・相手側に連携作業が発生
- ・一部の部門システム接続も可能

③データ参照パターン

プラットフォームから電カル/部門のDBを参照

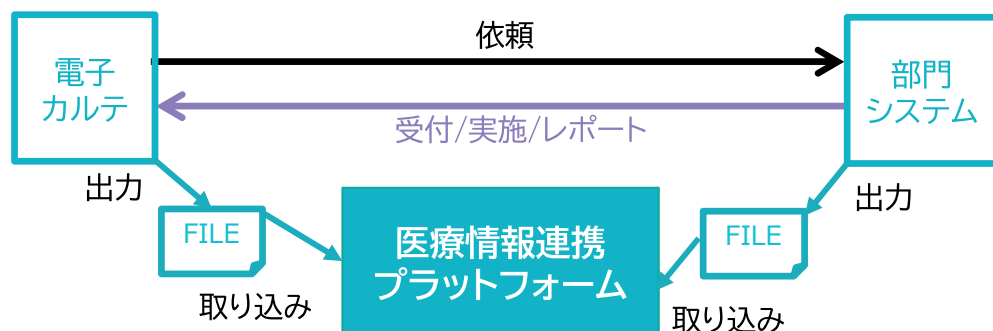


- ・相手側にデータ公開作業が発生
- ・一部も部門システム接続も可能

プラットフォームのデータ接続パターン

④ファイル連携パターン

電カル/部門が出力したファイルを取り込み



- ①リアルタイム連携で取得が難しい部門システム内の情報を連携可能 (レポート情報、数値情報等)

①リアルタイムパターン

プラットフォームが電文を中継



- リアルタイム要件が高い場合
- データだけでなくI/F機能の再利用も可能
- ダウン時対策のため冗長化推奨

プラットフォームのデータ接続パターン

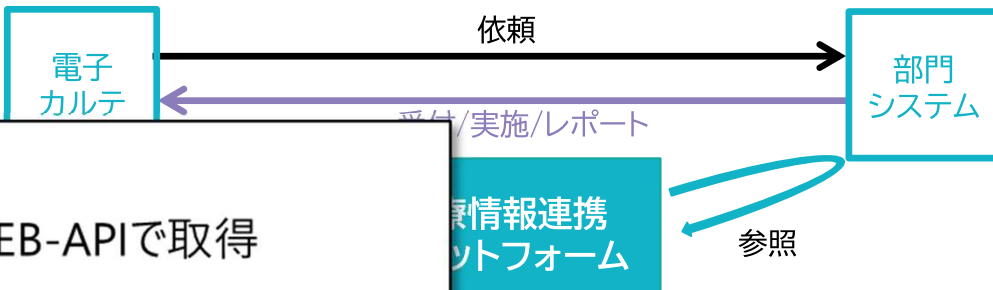
①リアルタイムパターン

プラットフォームが電文を中継



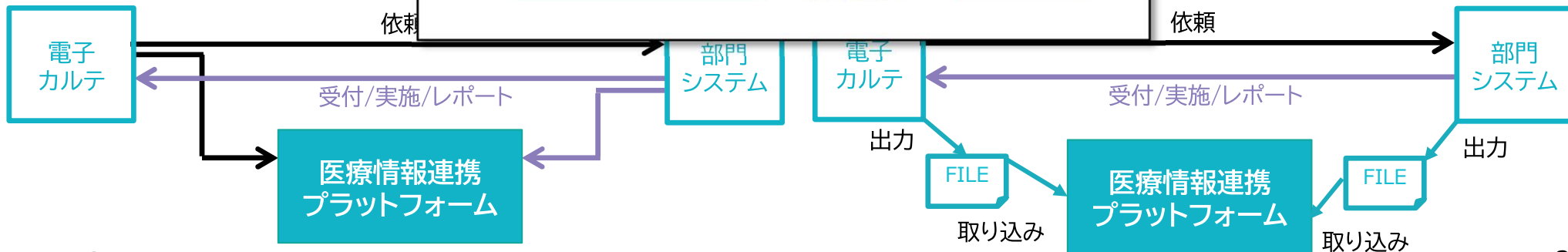
③データ参照パターン

プラットフォームから電カル/部門のDBを参照



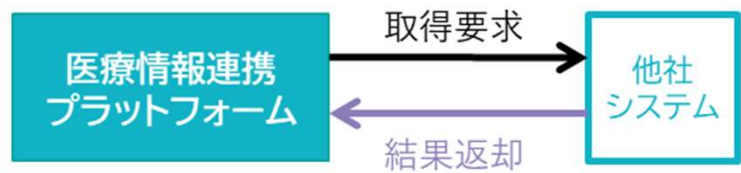
②リアルタイムパターン

電カル/部門から同じ電文



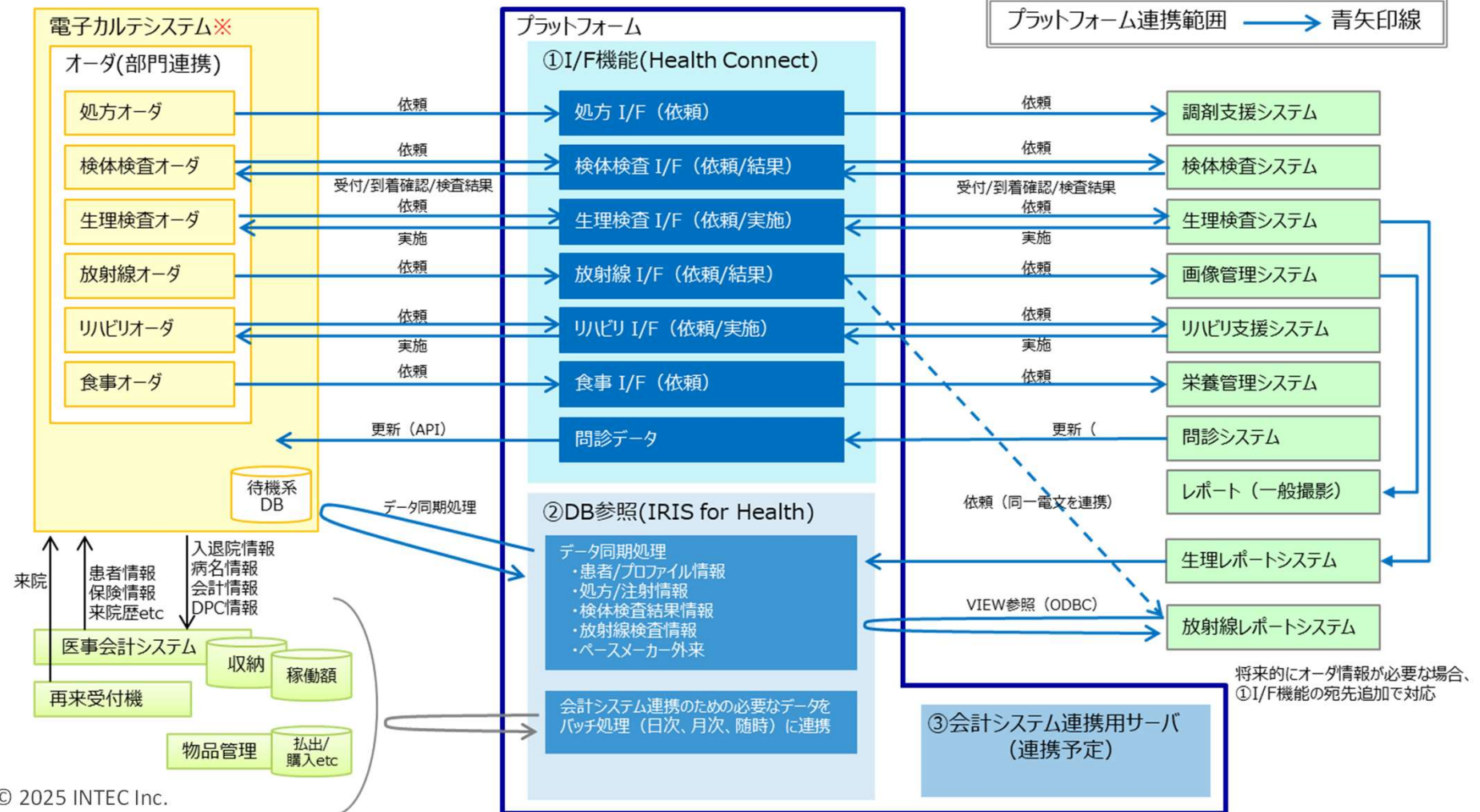
⑤WEB-APIパターン

プラットフォームからWEB-APIで取得

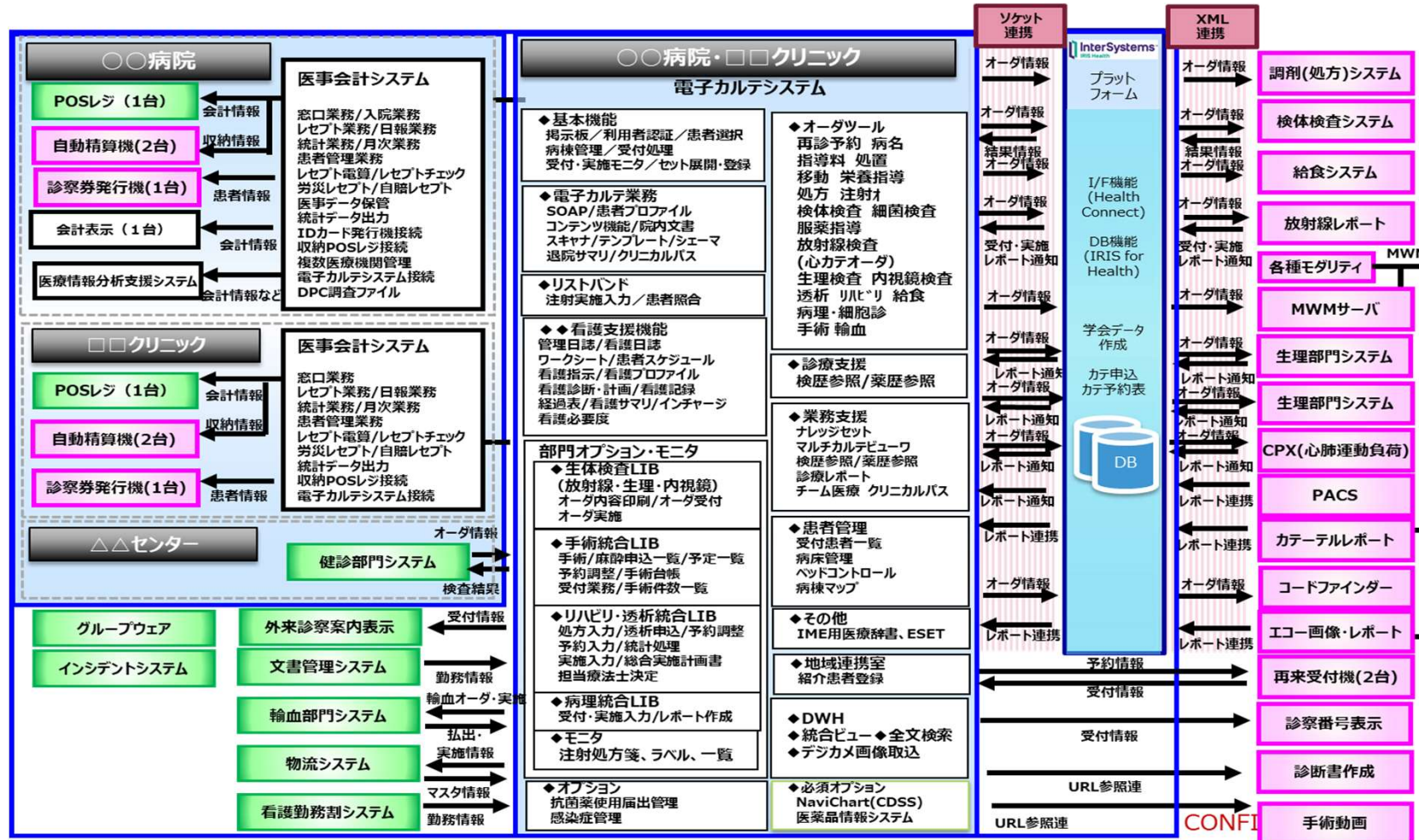


① リアルタイムパターン例 - 1

プラットフォーム連携範囲 → 青矢印線



①リアルタイムパターン例 - 2

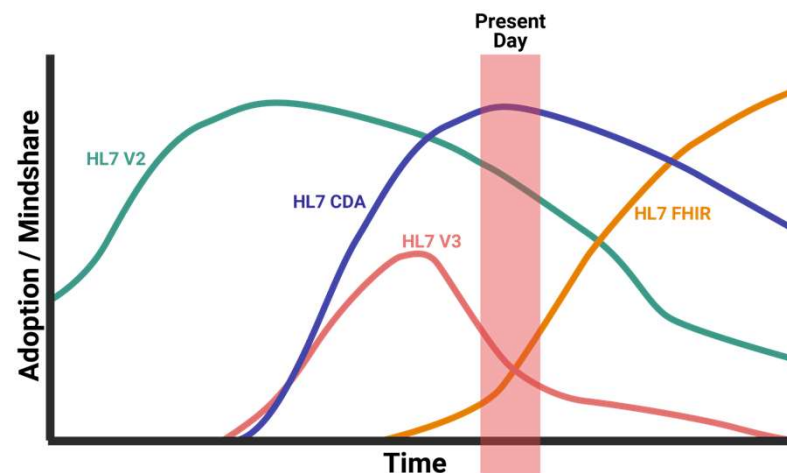


HL7 FHIR

Fast Healthcare Interoperability Resources

医療情報交換のためのHL7の新しい基準
 ・仕様はオンラインですべて公開：www.hl7.org/fhir

1. HL7 version2やCDAの正式な後継
2. 複数のパラダイムをサポート
3. IT業界標準
 (REST/JSON/XML/OAuth2) の技術を採用しており、短期間で実装可能
 (サンプルやライブラリ、そしてエンジニアが多い)
4. 80%ルール + 拡張性の担保

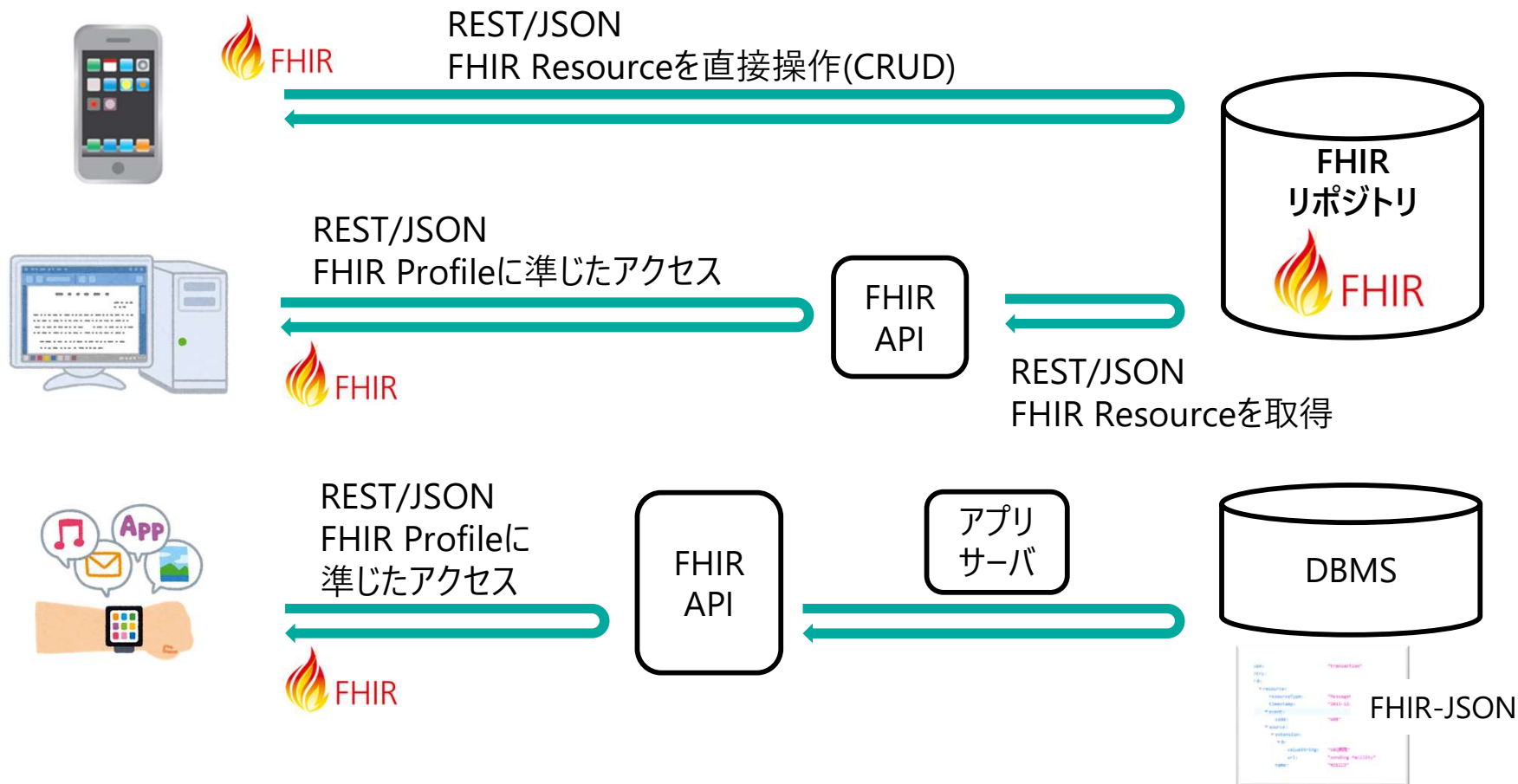


<http://www.hl7.org/fhir/directory.cfml>

■ FHIR Version

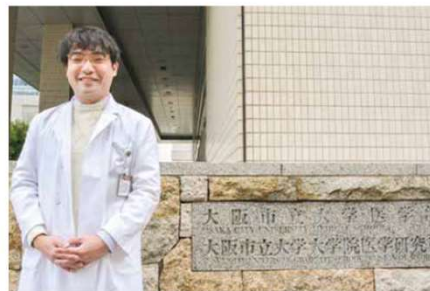
Mar 26, 2023	5.0.0	Release 5
Dec 27, 2018	4.0.0	Release 4 (1st Normative Content + Trial Use Developments)
Feb 21, 2017	3.0.1	Release 3 (STU - Standard for Trial Use)
Oct 24, 2015	1.0.2	DSTU2 (Second Draft Standard for Trial Use)
Sept 30, 2014	0.0.82	DSTU1 (First Draft Standard for Trial Use)

HL7 FHIR 連携イメージ

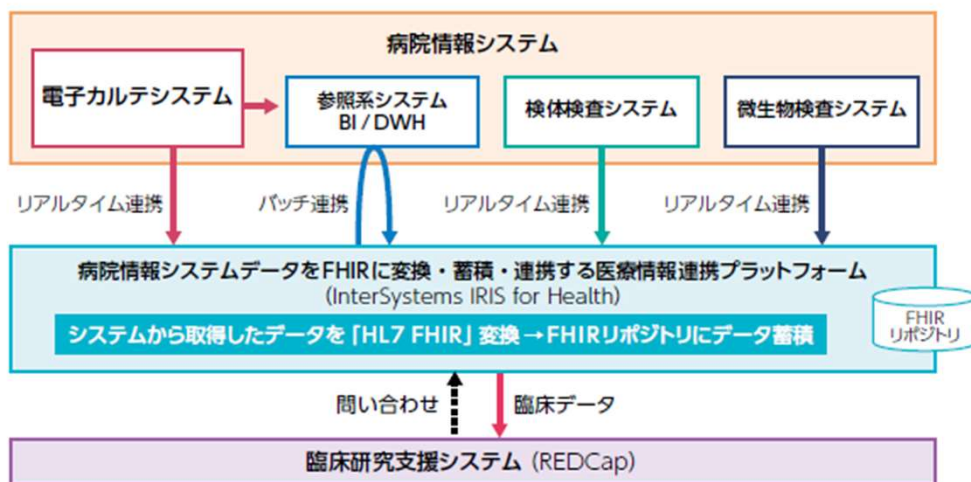


KEY POINTS

- 医療情報連携プラットフォームを構築し、病院情報システムの各種データを「HL7 FHIR」に変換、蓄積
- 臨床研究に必要な医療データを臨床研究支援システム「REDCap」とリアルタイム自動連携



システム概要



#	対象医療データ	取得元
1	患者プロフィール	EMR ^{*1}
2	バイタルサイン	EMR ^{*1} +電文 ^{*1}
3	患者病名	EMR ^{*1}
4	臨床検査結果	EMR ^{*1} +電文(部門) ^{*2}
5	微生物検査結果	EMR ^{*1} +電文(部門) ^{*3}
6	血糖スケール ・血糖検査値 ・インスリン処方実施結果	EMR ^{*1} +電文 ^{*1}
7	注射薬オーダー	EMR ^{*1} +電文 ^{*1}
8	処方オーダー	EMR ^{*1} +電文 ^{*1}
9	入退院情報	EMR ^{*1}
10	テンプレート ^{*4} ・定義情報(タグマスタ) ・データ	EMR ^{*1}

*1 電子カルテシステム「HOPE EGMAIN-GX」(富士通株式会社), 及び参照系システム(GX-BI/DWH)
 *2 検体検査システム(株式会社トラストブレイン)
 *3 微生物検査システム(ケーディーアイコンズ株式会社)
 *4 HOPE EGMAIN-GX 組み込みテンプレート, 及び「eXChart」テンプレート

第41回医療情報学術連合大会
 JCMIO8「当院における臨床研究基盤整備:FHIRと「REDCap」のデータ連携」
 より抜粋

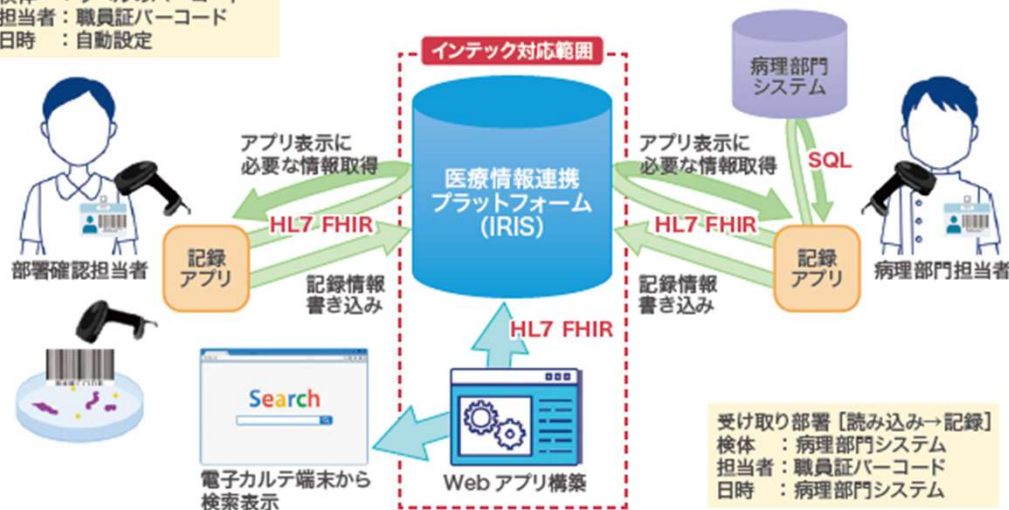
弊社事例資料より抜粋

© 2025 INTEC Inc.

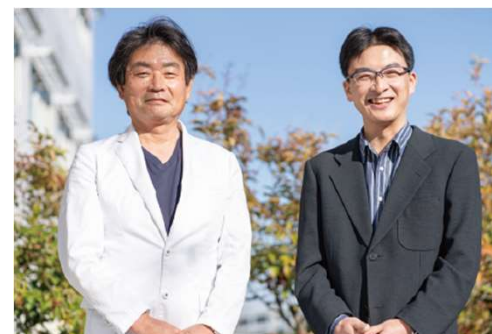
病理検体の所在不明リスクの低減、検体確認の作業効率化を目指し
医療情報連携プラットフォームを活用しFHIRを用いた
病理検体トレーサビリティ情報記録システムの構築を支援

医療情報連携プラットフォームを活用した 病理検体トレーサビリティシステム概要図

送り出し部署【読み込み→記録】
検体：ラベルのバーコード
担当者：職員証バーコード
日時：自動設定



受け取り部署【読み込み→記録】
検体：病理部門システム
担当者：職員証バーコード
日時：病理部門システム



— 今後、ほかの業務支援システムの計画はありますか。

鈴木：直近では造影のCTやMRI検査前に腎機能の確認をするために、血液検査の結果をリアルタイムでモニタリングできるチェックシステムを開発しています。現在は電子カルテのDWHを参照するような実装ですが、これをすべてIRIS経由のFHIR対応に切り替える予定で、5月をめどに構築できればとインテックと相談しているところです。また当院はペーパーレス化を進めていますが、業務によってはまだ紙の伝票などが残っていますし、スプレッドシートを駆使して運用している部署もあります。1つ1つをデジタル化していくことで業務負荷や仕事量が見えてくるでしょう。そこからシステムへのタスクシフトを検討していければと考えています。

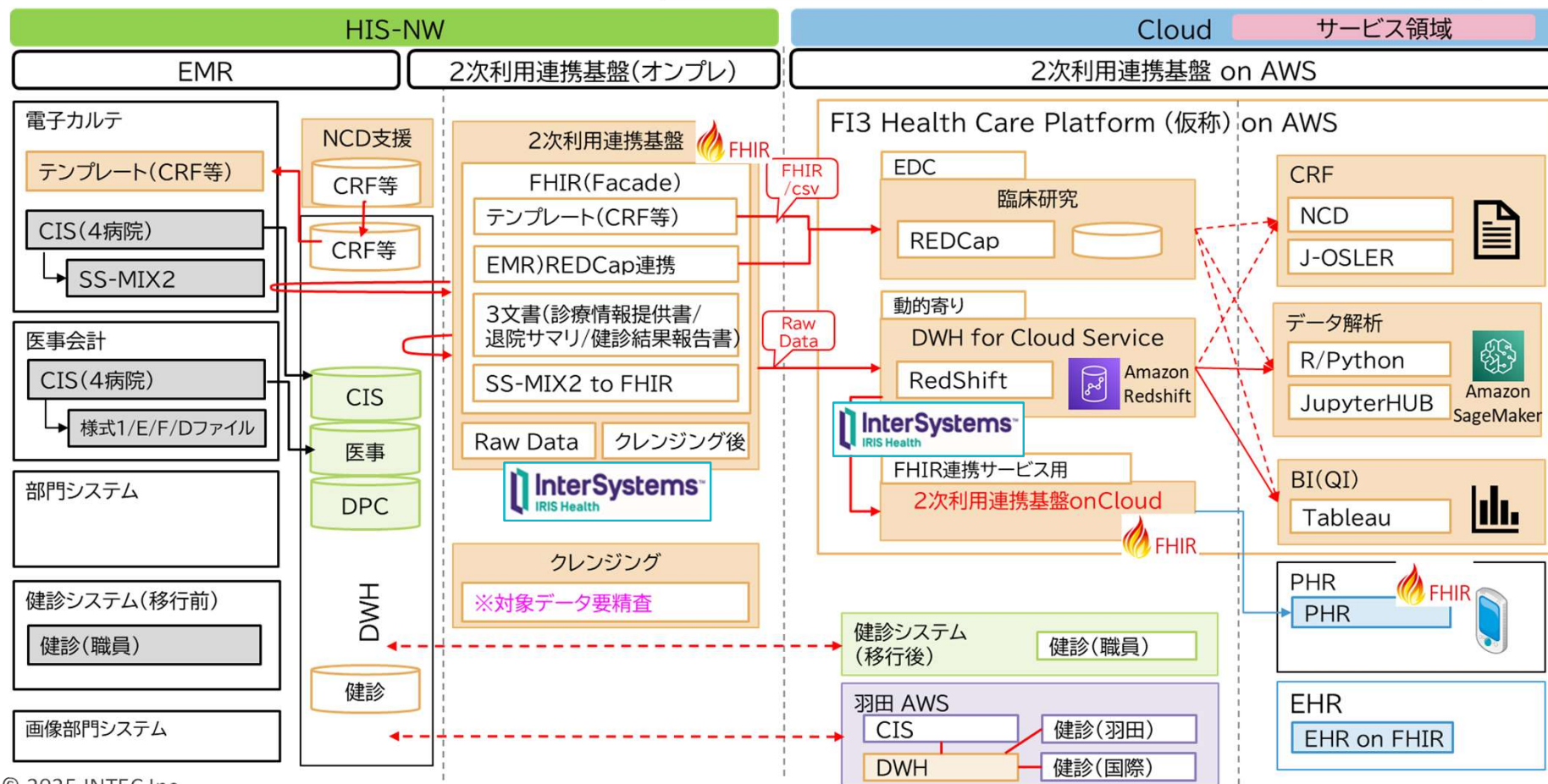
小口：将来的には、医療の業務フローから人事や経営もすべて統合した病院の運営をサポートするシステムを目指しています。

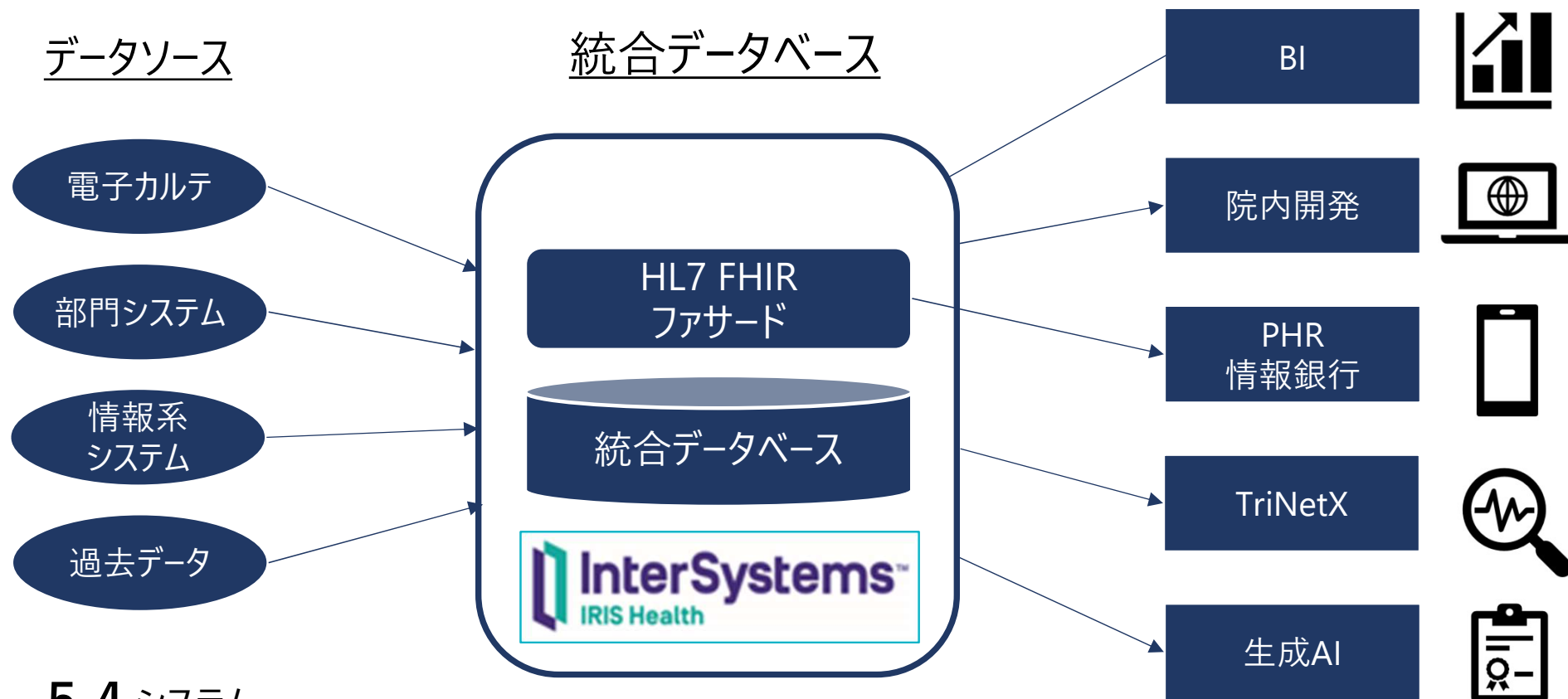
— インテックへの期待や要望はありますか。

小口：これからは、人からITへのタスクシフトが必要です。しかし、日本中の病院がシステム開発部門を院内に設置するのは困難な面があると思います。我々とインテックとの共同開発で生まれたシステムがパッケージ版となり、全国の病院へと広まっていくことを期待しています。

月刊新医療2024.1月号 記事より抜粋

凡例: 既設 新規取組み 改修/変更 計画/実証 —:既設 —:新設





5 4 システム

連携：ソケット(1),DB参照(22),ファイル共有(24),FTP(1),WEB-API(4),調整中(2)

まとめ 今後の展望

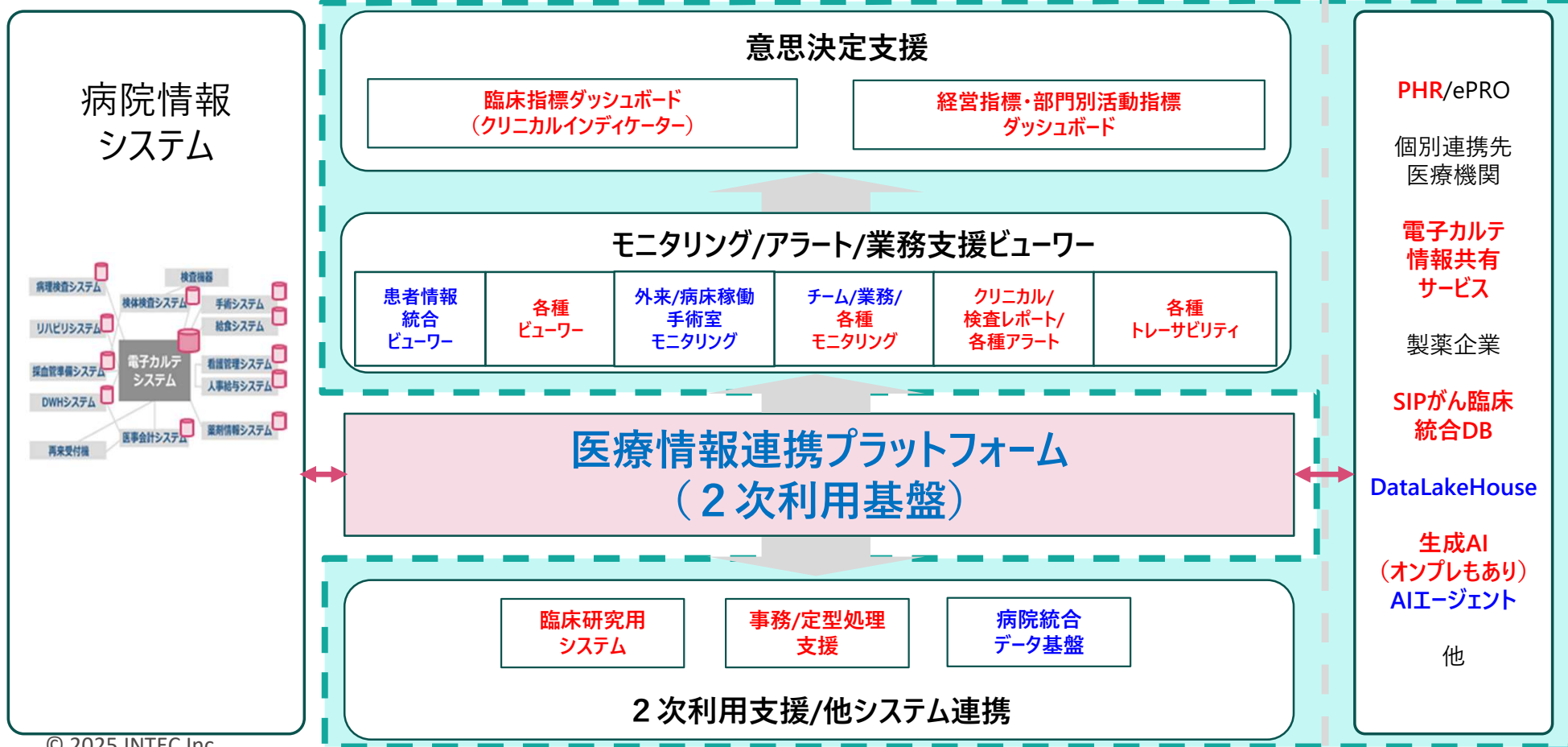
今後の展望（の前に）

自社・他社
ソリューション事例

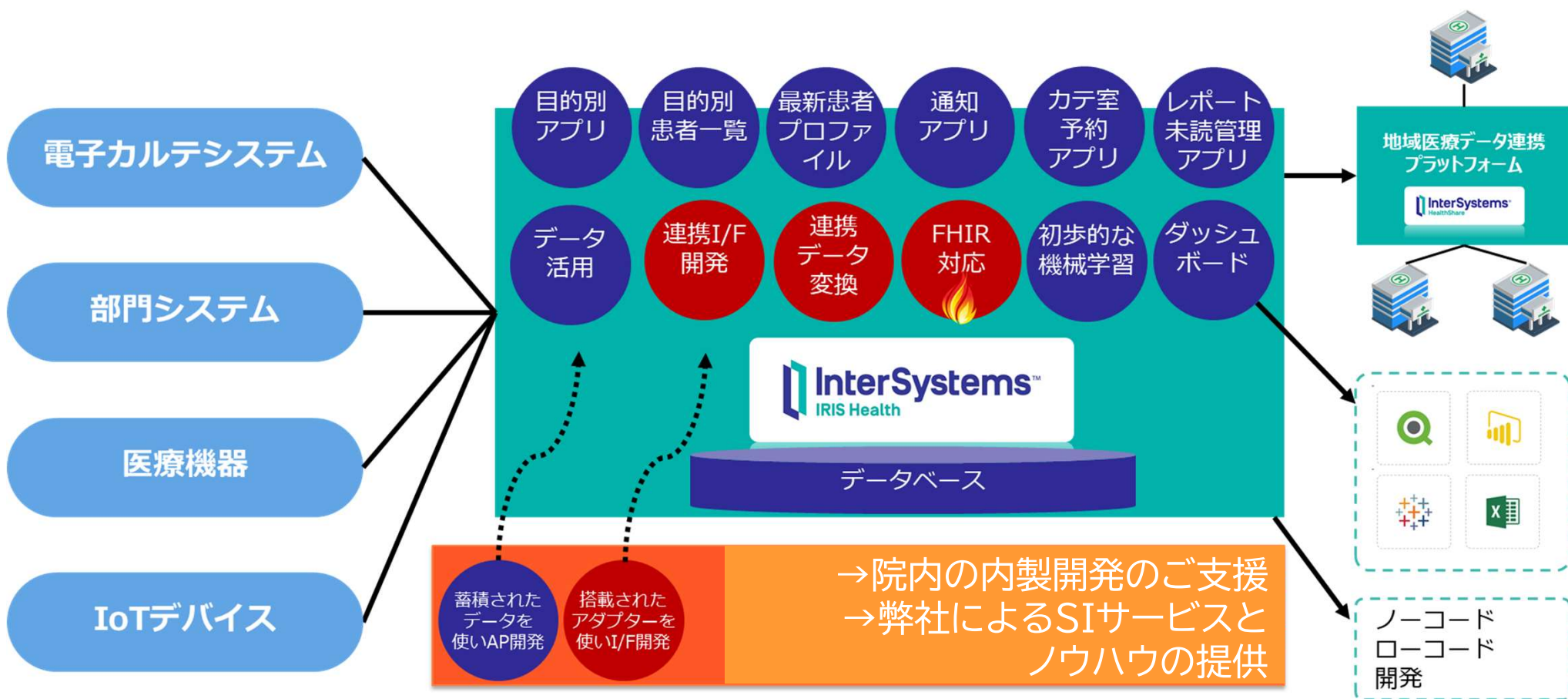


院内

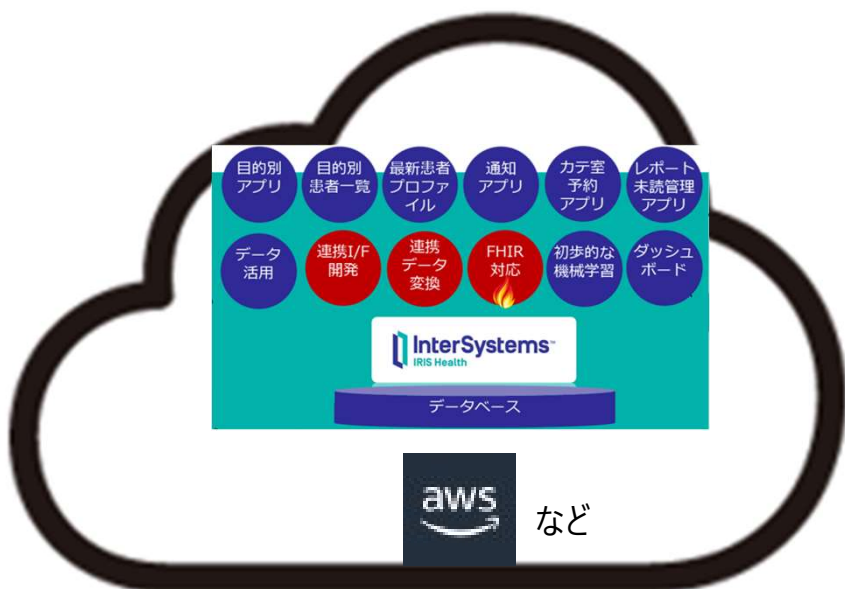
院外



病院の資産としてデータを蓄積する・守る・活用する



クラウドの活用による更なるデータ利活用の促進



生成AI

レポートドラフト作成 / 自然文によるデータ抽出



多施設データ統合

場所を問わず必要な時にアクセス、スケーラビリティの確保



データ分析

統合データの分析、ビジュアライゼーションを自動生成



従量課金

使用料に応じた課金、スモールスタート

プラットフォームを通じて実現したいこと

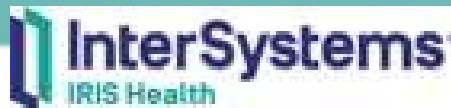
患者様・ご家族、医療従事者の方々をITで支えたい

病院経営の環境の変化に迅速に対応（スピード）



お客様の立場にたって、迅速に対応する
ITパートナー（共創）＝インテック

データがいつでも使える状態になっていること
＝医療情報連携プラットフォーム



インテックの医療事業案内

1. 医療事業への取り組み

インテックは、1964年の創立より「コンピュータユーティリティの確立」を目指し、汎用機しかなかった時代よりマルチベンダーの指向を貫き通して参りました。

病院情報システムは、大きく分けてソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、データベースの4つの要素から構成されます。インテックはプランニングから継続的な運用支援まで、ワンストップサービスをご提供いたします。

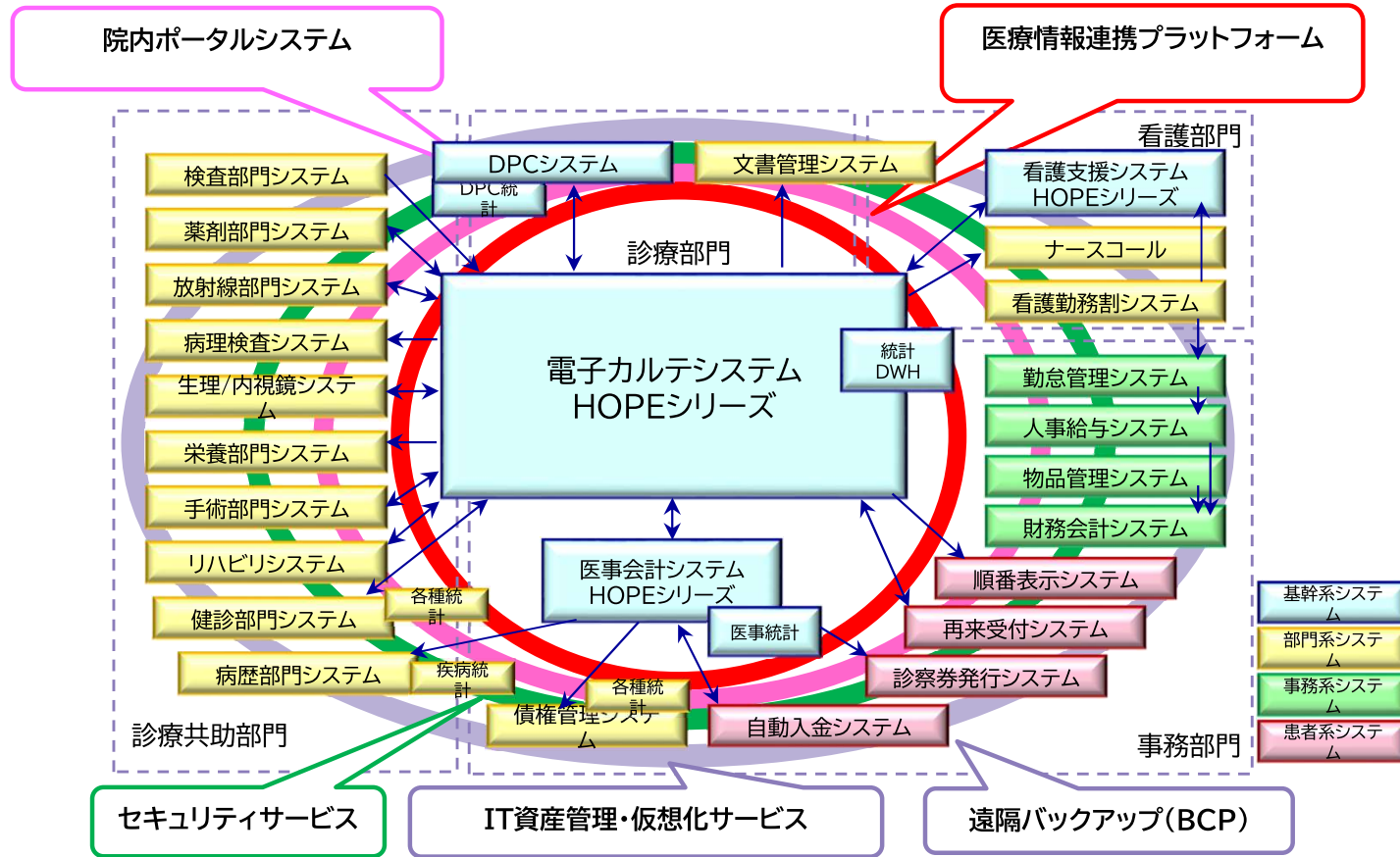
主な開発・参画実績

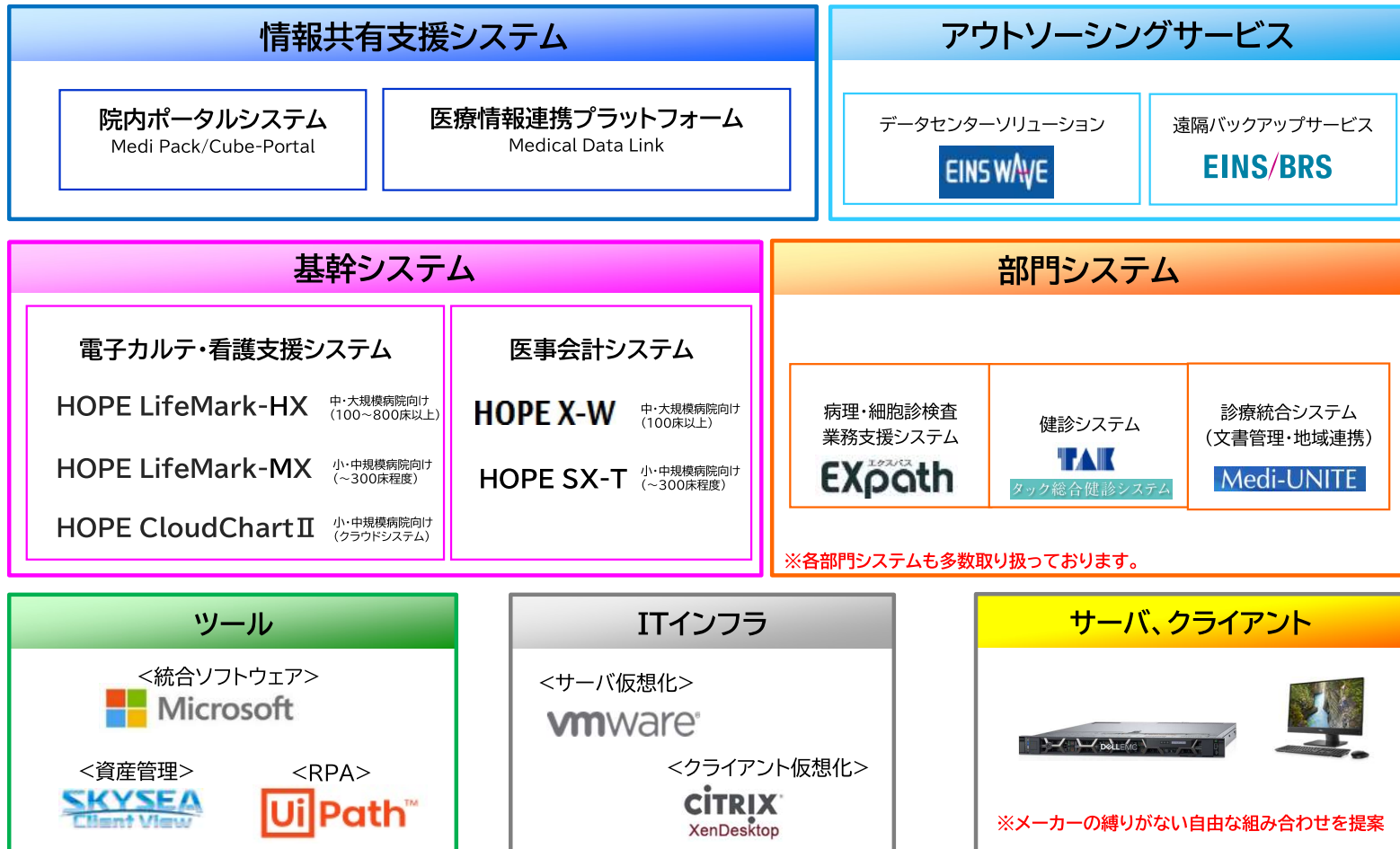
- 1970年代 国内初「漢字レセプトシステム」開発(横須賀共済病院様)
- 1990年代 国内初「UNIX版オーダーリングシステム」開発(長野松代総合病院様)
地域医療向け「受診者ウィンドウズシステム」開発(自治医科大学病院様)
病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath」開発(国立がんセンター東病院様)
国内第2号レセプト電算処理システム稼動(社会保険船橋中央病院様)
政府管掌保険成人病予防データ活用システム参画(社会保険健康事業財団様)
- 2000年代 社会保険病院定点観測システムベンダー認定(全国社会保険協会連合会様)
院内ポータルシステム「Medi Pack/Cube」開発(福井県済生会病院様)
病理・細胞診検査業務支援システム「EXpathⅢ」リリース
- 2010年代 国内初SSI社システムから電子カルテシステムリブレース(横浜新緑総合病院様)
病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath4」リリース
- 2020年代 医療DXを実現する医療情報連携プラットフォーム構築(岩手医科大学病院様)
病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath Ver5」リリース

医療機関向け提供実績

- ・電子カルテ、看護支援、医事会計システム「富士通 HOPEシリーズ」
- ・病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath」
- ・院内ポータルシステム「Medi Pack/Cube-Portal」
- ・医療情報連携プラットフォーム「Medical Data Link」
- ・各種部門システム(薬局、検査、健診、給食、PACS、病歴、人給、財務、物流 etc.)

2. 全体サービス概念図

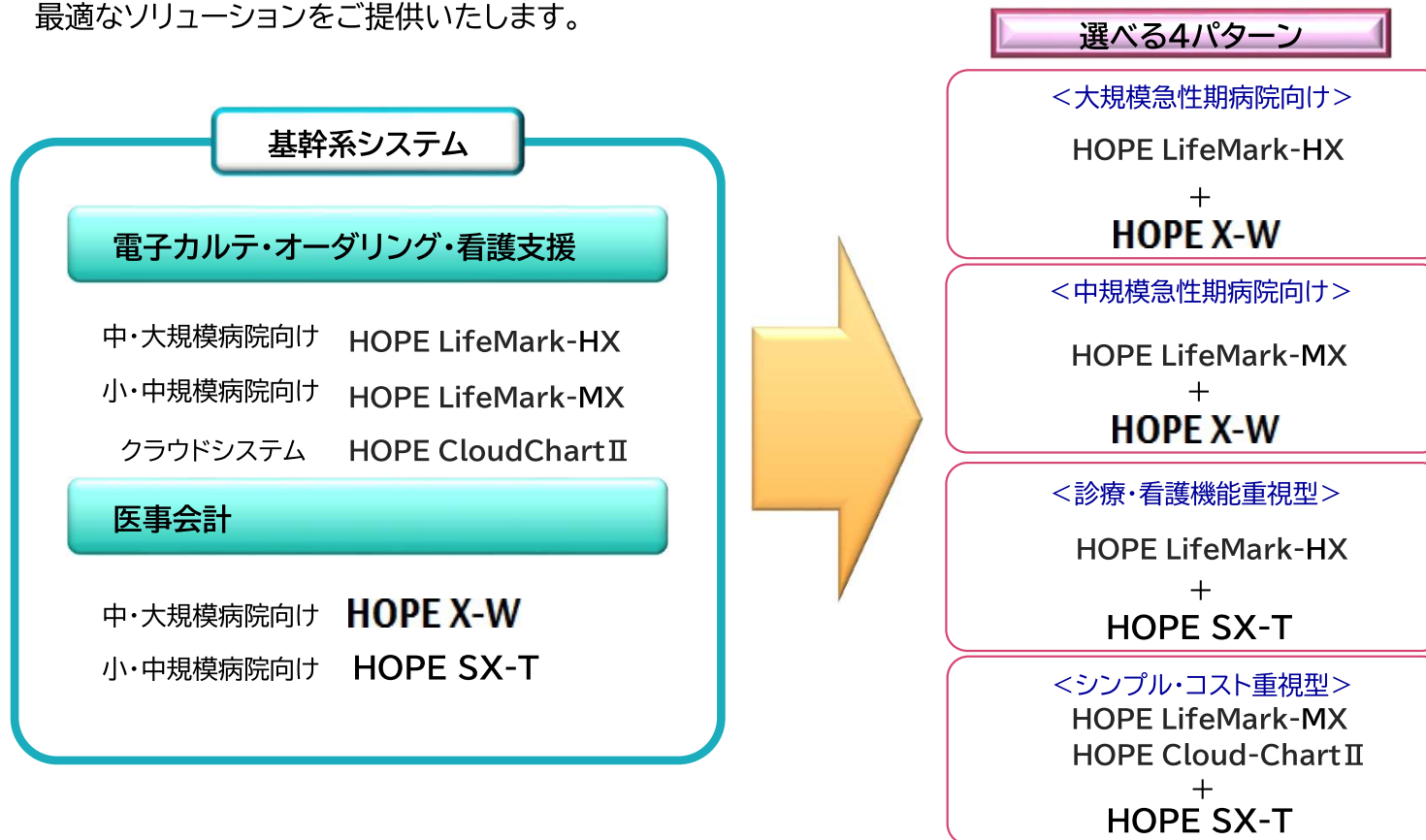




4. 基幹系システムにおける弊社の特長

インテックの基幹系システムにおける最大の特長は、**病院様の特性やご要望に合わせた最適なシステムの構築・保守が可能である点**です。

独立系企業の強みと自社製品開発のノウハウ、他社製品の構築・保守実績により、お客様の悩みを解決する最適なソリューションをご提供いたします。

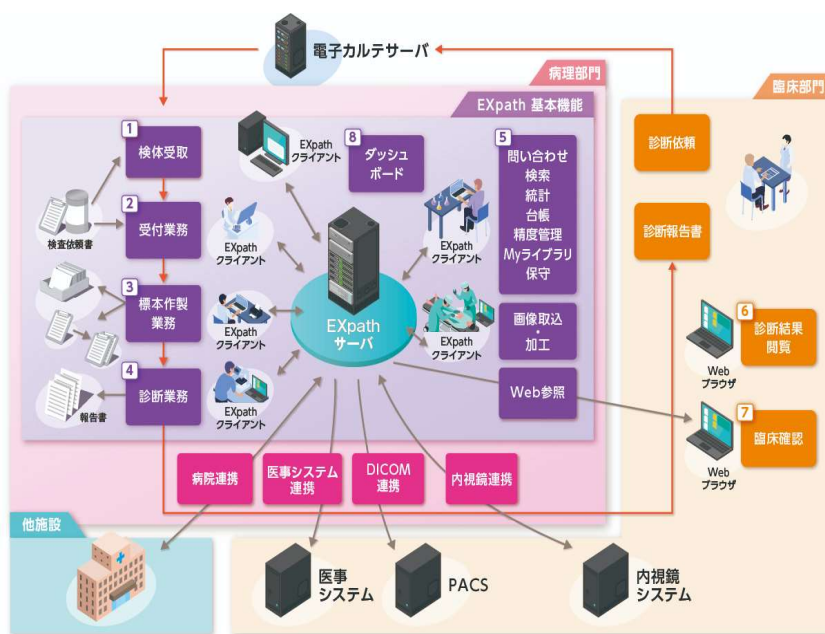


5. 病理・細胞診検査業務支援システム(EXpath)概要

病理・細胞診検査業務支援システムEXpathは、インテックが長年培った病理システム開発のノウハウを結集したパッケージシステムです。

EXpathは、電子カルテやオーダリングシステムと連携し、病理オーダの受付から報告書作成の支援まで、病理部門の業務をサポートします。

また、画像情報や診断情報を一括管理し、データの二次利用を行うことが可能です。



【特徴】

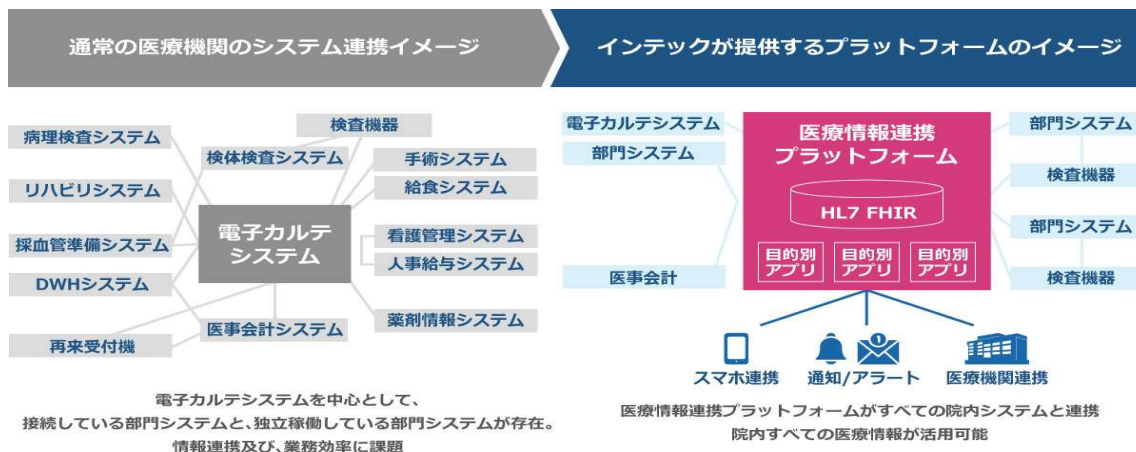
病理検査の現場からお聞きしたお客さまの声をフィードバックすることで、優れた機能と人にやさしい操作性を両立しました。

- 電子カルテシステムとのシームレスな連携を実現
- バーコードの活用によるインシデントの抑制
- ユーザ権限設定、画面ロックなど、高セキュリティを確保
- 周辺機器との連携 (WSI、カセットプリンタ、フロストプリンタ、etc)
- 周辺システムとの連携 (内視鏡システム、がん登録システム、画像サーバ、総合診療支援システム、etc)
- 保険医療機関間連携を支援
- 臨床部門の報告書確認漏れ防止を支援
- 検体受取、標本作製時の作業者、日時記録によるトレーサビリティの確保
- 作業予定、作業実績を大型モニタに表示し検査室の見える化を実現
- ホルマリン、試薬などの入出庫、使用記録、使用期限を管理

病理データ管理	他部門との連携	
<ul style="list-style-type: none"> ● テキスト、画像一元管理 ● 履歴管理 ● 診断フェーズ管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業記録 ● 検体受取 ● 追加切り出し 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 電子カルテシステム ● DICOM画像転送* ● 総合診療支援システム* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保険医療機関間連携* ● 医事システム ● がん登録システム* ● 内視鏡システム* 	
使いやすさ	周辺機器、周辺システムとの連携	
<ul style="list-style-type: none"> ● 診断名読み込み ● 所見文字装飾 ● デジカメオンライン取込 ● 自動既往歴表示 ● 定型文入力 ● 汎用規約入力 ● 画像加工 	<ul style="list-style-type: none"> ● カセットプリンタ ● フロストプリンタ ● 自動免疫染色装置* ● LBC* ● WSI* ● 音声入力システム ● 自動薄切装置* 	
作業効率改善	データの活用	セキュリティ
<ul style="list-style-type: none"> ● バーコード ● 自動染色依頼 ● スペルチェック ● まとめ電子ロック ● 依頼書まとも取込み ● スライドラベル印字 ● 報告書まとの印刷 ● 買出管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多彩な検索 ● 統計 ● Myライブラリ ● ダッシュボード ● ターンアラウンドタイム ● 試薬管理* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電子ロック ● アクセスログ (改訂ベース) ● 自動バックアップ ● ユーザ認証 ● ユーザ権限設定 ● 画面ロック

6. 医療情報連携プラットフォーム概要

医療DXを実現し、電子カルテシステムを一部門としてデータ活用や地域連携システムへの連携が容易なプラットフォーム構築を実現いたします。



【特徴】

1. 電子カルテや部門システムから独立
 - ✓ 電子カルテや部門システムのベンダー変更、更改をしてもそのまま継続利用可能
2. 医療データを連携し、利用しやすくなるための標準規格に準拠
 - ✓ HL7 FHIR形式での蓄積が可能
 - ✓ SS-MIX2とのデータ変換アダプタなど標準装備
3. 医療機関のニーズ/課題に合わせた画面やアプリを提供
 - ✓ インテックから汎用ソリューションを提供、またはカスタマイズ開発も可能
4. データとI/Fが標準化されているため、他社のアプリも使用可能
 - ✓ APIを活用することでベンダーフリーのデータ活用が可能

【利用シーン】

<p>1 医療安全分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レポートのステータスをポータルで一元管理し、未読読状況を可視化 ● 部門・患者横断で状況を俯瞰 ● パニック値の発生による担当医師へのメール通知 ● 検査結果、経過観察中の患者の救急搬送、施設内における感染症の確認など 	<p>医療安全 レポート既読管理</p> <p>医療安全 アラート通知</p>
<p>2 医療データ高度活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 臨床研究用リポジトリとして ● 部門・患者横断で状況を俯瞰し、院内共通で利用できるデータベースとして ● 定型帳票の作成ベースとして 	<p>データ2次利用 定型帳票自動化/データ分析</p> <p>統計解析/医療BigData 機械学習/AI</p>
<p>3 医療機関連携/患者連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療機関間での早期介入を支援するデータ共有の仕組み ● 医療法人グループ内でのシームレスな診察 ● 特定の疾患を治療するための患者向けPHR運用 	<p>医師向けViewer</p> <p>PHR運用</p>

ITで、社会の願い叶えよう。



<本資料に関するお問い合わせ >

株式会社インテック

医療ソリューション事業本部 第一医療ソリューション部 熊谷 宗久

E-Mail : kumagai_munehisa@intec.co.jp

<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、株式会社インテックから許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。

© 2025 INTEC Inc.